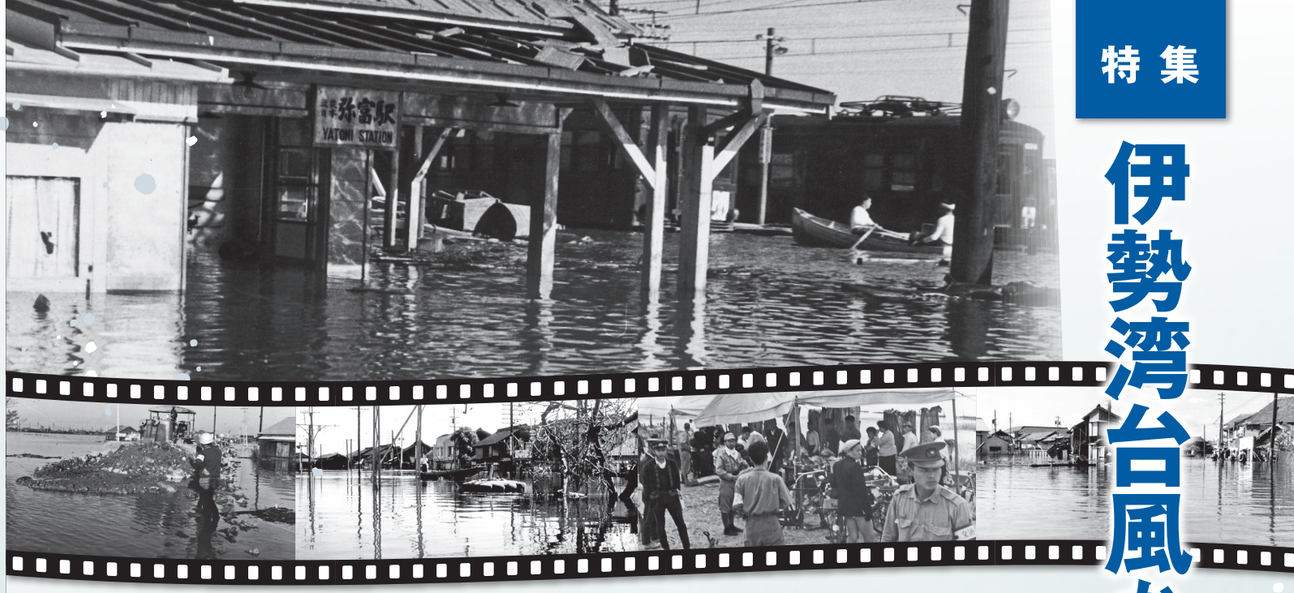
特集

伊勢湾台風から60年



1959（昭和34）年9月26日、夕刻ごろに潮岬付近に上陸し、紀伊半島から東海地方を中心とし、ほぼ全国にわたって甚大な被害を及ぼした猛烈で超大型の台風。伊勢湾沿岸の愛知県および三重県の被害が特に甚大であったことから、気象庁は「伊勢湾台風」と名付けました。

本市（旧弥富町・旧十四山村）では、海岸堤防が決壊し、海水の流入は2か月以上になり、鍋田干拓では4か月以上湛水したことにより土壌に塩害が発生しました。また、特産の金魚や農業などあらゆる産業が大きな被害を受けました。

体験談　死を覚悟した極限の状態だった…　伊東 加富さん（当時 26 歳頃）

私は、長野県新野（にの）村（現在：長野県中野市）に生まれ、1959 年 4 月に鍋田干拓に入植した。

9 月 26 日午後 9 時 15 分頃、夕食をしていると瓦がバラバラと飛ぶ音がした。もうこの辺で終わってほしい、と思った瞬間、ドドドーン！という風圧で玄関の戸が吹っ飛ばされ、鈍く光って襲いかかる高潮を見た。急いで積み上げた布団の上に飛び上がりこぶしで天井をはがし屋根を破って顔を出したが、雨が顔に突き刺さるように痛かったのを今でも覚えている。何度か家を超えていく高潮に押しつぶされ、家もろともに水に飲みこまれた。

干拓から境の集落へ流される流れに巻き込まれ、必死に顔を出そうとしても流木が水面を覆っていて顔を出せない。死を覚悟した極限の状態だった。意識が薄れていく中で、伸ばした手が水面の隙間を見つけて顔を出すことができた。2 時間ほど漂流し、友人 2 人に出会い、寒くてガタガタ震えたが、「寝ると死ぬぞ！」とお互いに頬をバチバチ叩き、励まし合った。

27 日、全てが水の中にあり干拓の堤防の存在もなく、自分たちの居場所がわからない状態だった。通りがかった小船に乗せてもらい、ぼろぼろの服と傷だらけの体を救援物資の毛布に包み、甚目寺中学校の体育館に着いた。そこでは、うなされて大声で叫ぶ者、体調不良を訴える者などがいた。

インタビュー

Q1. 遺体の捜査をしていた時の状況を教えてください。

同郷のＳさんは奥さんと子どもの遺体を見つけて、置いていくわけにはいかないから、今晩泊まって通夜をすると言って残した。他にも、あの頃は若い新婚さんがとても多かった。お母さんの遺体からへその緒が繋がった男の子が生まれていたり、**とても言葉にできないほど悲惨だった。**

Q2. 伊勢湾台風から 60 年経った今、若い人や伊勢湾台風を経験していない人たちに何を伝えたいですか。

「災害は忘れたころにやってくる」という言葉はあるけど、「忘れないうちに必ず来る」。台風は事前の情報が入ってくるけど、地震は 24 時間いつくるのか分からない。子どもは学校で学習しているが、大人はほとんどとは言わないが、意識が低いと思う。だから、今後もこの伊勢湾台風の話をして、たくさんの人に知ってもらい、災害に備えてほしい。

伊勢湾台風60年事業を紹介します!

ミュージカル伊勢湾台風STORY「空が落ちてきた日。」

市広報大使であり劇作家のやとみまたはちさんが制作・演出する作品で大災害とそれに立ち向った人々の勇気の物語です。

▼と　き
9 月 22 日（日）
午前の部：午前 11 時開演、午後の部：午後 4 時開演

▼ところ
総合社会教育センター

※こちらの観覧の募集は締め切らせていただいていますので、ご注意ください。
※9 月上旬頃に市役所秘書広報課より観覧当選はがきが届いた方は、必ずはがきを持参のうえ、ご来場ください。

防災展

過去の災害から学び防災意識を高めるために、関係機関やボランティア団体などと連携して、防災啓発イベントを行います。

▼と　き
9 月 22 日（日）午前 10 時～午後 4 時
※小雨決行（雨天時は、催しの一部を中止する場合があります。）

▼ところ
総合社会教育センター

▼内　容
地震体験車「なまず号」や災害対策車輌「ウニモグ」などの展示、各種団体ブースなど

問 市役所危機管理課（内線 362・365）

伊勢湾台風60年企画展「いま、伝えたい記憶」

市域で 358 人、全国では 5,000 人以上の犠牲者が出た伊勢湾台風の災害状況や復興の様子の写真、救援物資やラジオ、灯りなど当時の暮らしの様子がわかる道具などを展示しています。また、被災者の体験談などを紹介しています。総合社会教育センターでも、伊勢湾台風写真・パネル展を開催しています。

▼と　き
～ 9 月 29 日（日）

▼ところ
歴史民俗資料館

▼休館日
月・火曜日

問 歴史民俗資料館☎65－4355